

博物館基本計画 概要版

平成 27 年 3 月
七尾市教育委員会

市民とともに創る博物館の整備に向けて

七尾市では、市民に親しまれ、市民にとって価値ある博物館を創るためには、市民の皆様の知恵を結集することが必要と考えています。

このため、博物館整備の検討にあたっては、七尾市まちづくり基本条例に基づく市民からの公募委員をはじめ、学識経験者、行政関係者で構成される「博物館建設に係る市民・有識者検討委員会」（以下、「委員会」）を設置して検討しています。

「博物館基本計画」は平成26年3月に策定された「博物館基本構想」にもとづき、博物館整備をより具体化するために、委員会及び委員会のもとに設置された市民ワーキングで検討を重ねた結果をとりまとめたものです。

博物館整備の意義

博物館整備の意義（基本構想より）

意義1 能登・七尾を知り、学び、発信するための拠点として

七尾市の歴史的・地理的環境をふまえ、博物館は、能登への玄関口として、能登と七尾について一元的に知り、学び、発信する「能登・七尾の知的交流拠点」としての役割を果たします。



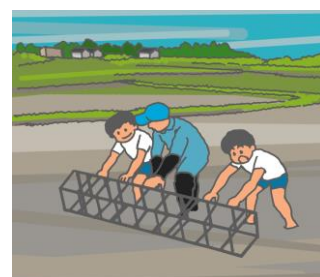
意義2 能登・七尾の豊かな自然環境と歴史・文化資産を保全・継承し、活用するための拠点として

博物館は、能登・七尾の豊かな自然環境と歴史・文化から生み出された農林水産業と、それに関連する生活文化や暮らしをはじめとするアイデンティティを保全・継承し、活用する「文化継承・活用拠点」としての役割を果たします。



意義3 能登・七尾の将来を担う人づくりの拠点として

子どもたちをはじめ、市民ひとりひとりの自主的な学びと自己実現のための学校教育・生涯学習の場として、また、多様な学習機会の創出を図る市民の「人づくりの拠点」としての役割を果たします。また、博物館活動への主体的な参画により、市民の学習活動が活発になることも期待されます。



博物館の基本理念

能登立国 1300 年の暮らし（自然、歴史・文化）の 価値をふまえ、未来を創造する博物館

七尾市は、古代・中世～近世・近代・現代まで、能登の政治・経済・文化の中心地であり続けています。能登が養老2年(西暦718年)に立国してからおよそ1300年。立国以前から、先人たちは自然と共生する価値ある暮らしを営んできました。

能登の先人たちの暮らしは、能登半島独特の穏やかな気候と地形が生んだ豊かな環境の上に築かれており、そのような自然と1300年の歴史・文化を知ることが、能登の暮らしの価値を知ることにつながります。また、能登・七尾の暮らしの価値を受け継ぎ、活かすことで、未来を創造し、発展させることが期待されます。

このため、能登の歴史的・地理的中心地である七尾市に、能登の里山里海の価値を知る知的交流拠点として「総合博物館」を整備します。

博物館の基本的な性格（基本構想より）

正しく「伝える」

- ・能登・七尾の自然、歴史・文化と、それらに立脚する人々の暮らしの価値を、正しく「伝える」展示や学習プログラムの提供、情報提供を行います。

楽しく「学ぶ」

- ・能登の暮らし（自然、歴史・文化）を、体験、参加、遊びを通じて、楽しみながら「学ぶ」機会を、学校教育や地域学習活動との連携によって提供します。
- ・市民が博物館運営に参画する機会を提供しながら、地域の価値に目をむけるきっかけを作り、地域への愛着と誇りを育む拠点となります。

永く、適切に「守る」

- ・七尾の貴重な資料を、市民の共有財産として、安全かつ確実に保存する設備とスペースを確保し、後世へ向けて貴重な資料を「守る」拠点となります。

広く「交わる」

- ・博物館は能登の玄関口として機能すると同時に、能登の文化施設とのネットワークの要となり、多くの人が集まり、広い「交わり」をつくるきっかけとなるにぎわい拠点となります。

深く「究める」

- ・子どもを含む市民の研究活動のほか、各種活動の連携の場となり、能登・七尾について深く「究める」拠点となります。

事業活動の構成

機能1 展示・情報 発信

能登の魅力ー里山里海文化ーの発信

市外・県外から多くの人に訪れてもらうために、能登・七尾の魅力である「能登の里山里海」に焦点をあてて、展示を中心とした情報発信を行います。



機能2 教育・交流

七尾の地域学習と体験

子どもたちが七尾について知る教育機能として、また市民の学習活動の拠点として施設を活用してもらうため、七尾の自然・歴史文化について学習し、体験できるスペースを提供します。

また、学習や体験を通して、七尾について楽しく学べるプログラムの充実を図ります。



機能3 調査・研究

資料整理

七尾市が所蔵する自然や歴史、文化財等の資料を適切に保存し、後世へと確実に伝えていくとともに、それらの資料を活用した研究活動をサポートします。

また展示のための準備作業スペースを確保します。



機能4 交流

地域の憩いの場

能登歴史公園の中に立地する施設として、公園利用者の休憩や憩いの場としての役割を果たすとともに、市外・県外からの来訪者のための案内を行います。



その他 運営

さまざまな主体との連携による開かれた博物館

上記の4つの機能を効果的に発揮するため、関連施設や研究機関、民間事業者など、多様な主体との連携を図るとともに、利用者の視点に立った成長する博物館をめざします。

また、学校教育や市民の学習活動などと連携や、市民・地域団体が施設運営に参加する機会を創出することにより、さまざまな人たちが博物館活動に参加協力できる開かれた運営体制をめざします。



博物館施設計画の考え方

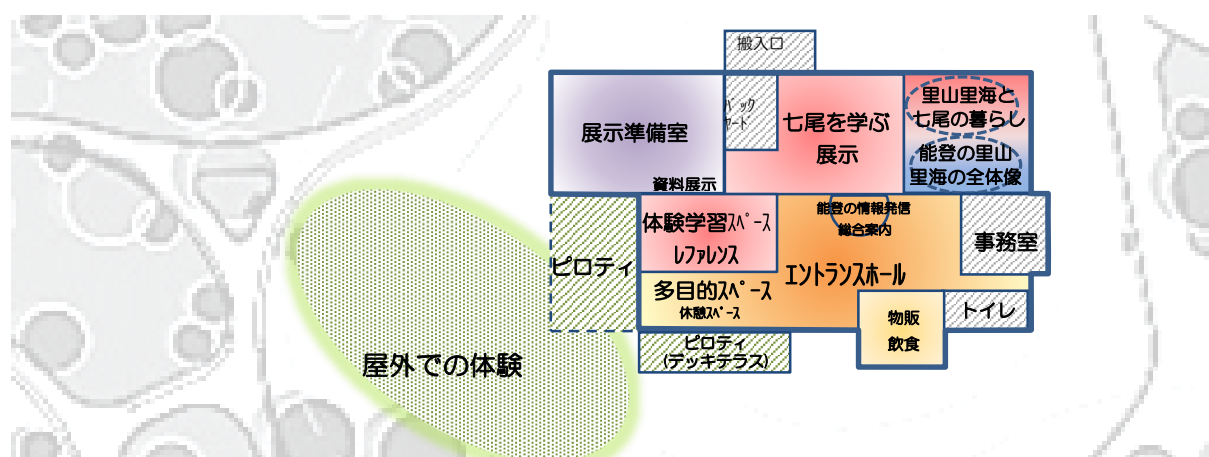
博物館の建設予定地 「能登歴史公園」(国分寺地区)

能登歴史公園と博物館建設予定地



施設計画

- 各スペースの配置の考え方として、下図のような平面配置を基本としますが、今後、利用者の使い方や動線などを勘案しながら、詳細な検討を行うものとなります。
- 展示室、学習・体験スペース、多目的スペース、展示準備室、エントランスホールをあわせた全体の面積を、おおむね 2,000 m²を基本として床面積を設定し、それぞれのスペース面積や配置については、今後詳細に検討することとします。
- 七尾市が所有する膨大な資料は、市内の未利用施設（廃校舎など）を活用して適切に保存します。



施設イメージ

展示イメージ

3つの展示室を設置しそれぞれテーマを設定するとともに、全体を通してストーリーを展開し、七尾の魅力を発信します。

展示室1. 能登の里山里海の全体像



展示室2. 里山里海と七尾の暮らし



展示室3. 七尾を学ぶ



施設イメージ

公園の中に建つ博物館として、屋外も一体的に使用しながら、「見て・触れて・楽しめる」施設づくりを目指します。



上：多目的スペースと屋外の一体利用イメージ、左下：生涯学習スペース、右下：里山里海と七尾の暮らし

博物館の管理運営の考え方

基本方針

- 1 多様な主体との連携による効果的・効率的な博物館の運営
- 2 利用者の視点に立って成長する博物館の運営
- 3 市民とともに支える開かれた博物館の運営

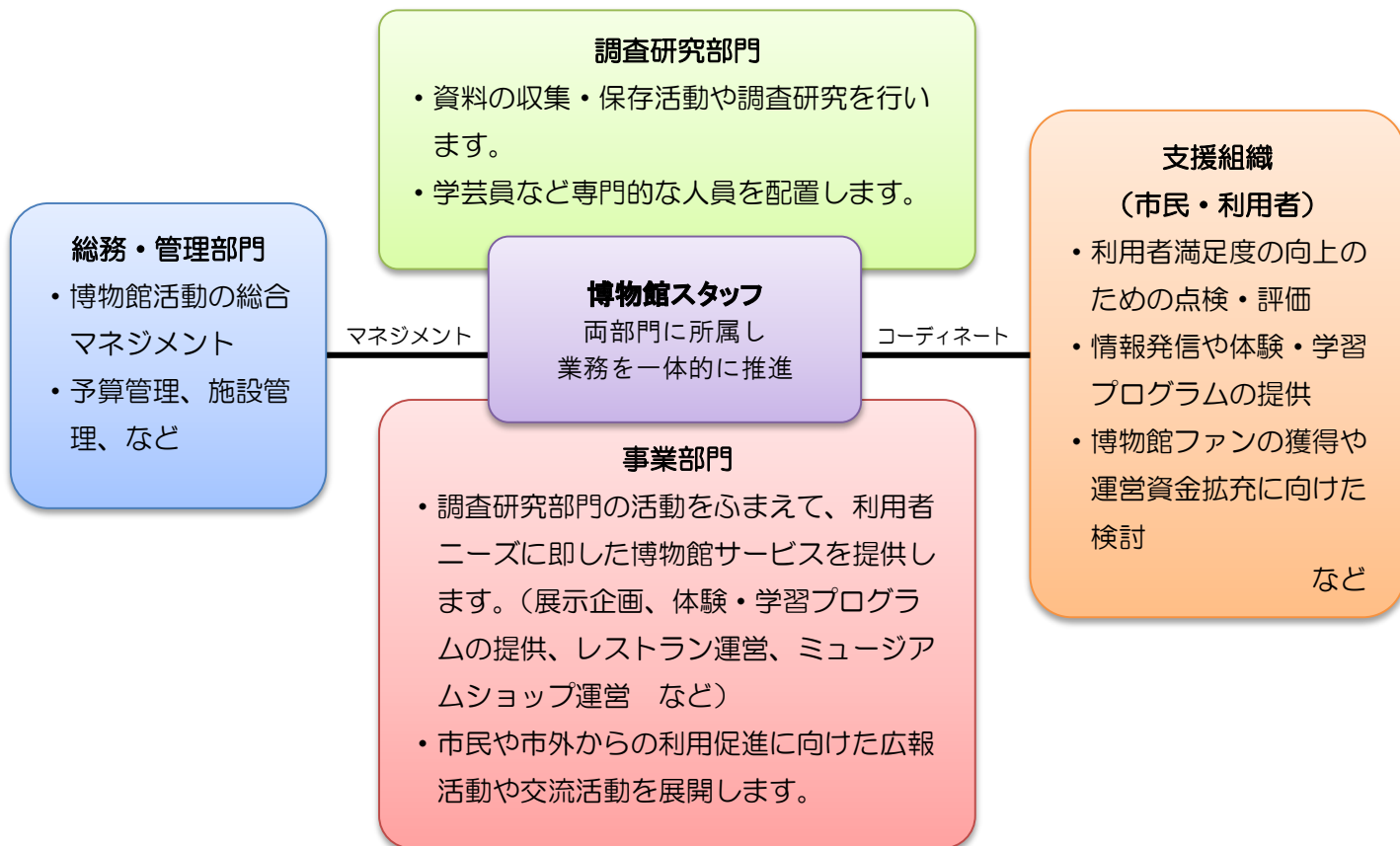


管理運営方式

運営方式には、「自治体直営方式」「指定管理者方式」「直営＋指定管理者方式」などがありますが、自治体が主体的に担う部分と利用者の多様なニーズに対応し、サービス向上を図るために民間事業者のノウハウが必要と考えています。

そのため、管理方式については直営＋民営（指定管理を含む）で行います。詳細については今後の管理運営計画の中で決めていくこととします。

組織



博物館開館に向けての進め方

開館までの工程

能登立国 1300 年となる節目の年である、平成 30 年のオープンをめざします。

しかし、交通アクセス環境整備や能登歴史公園の整備後、検討や準備作業の進捗を勘案し、できるだけ早い時期のオープンをめざすこととします。

		H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度
建設	施設	基本構想	基本計画 (骨格検討)	基本・実施設計	建設	展示整備	オープン
	展示			基本・実施設計			
運営				運営主体・ 運営方法の検討	プログラムの作成		
				PR			

今後の進め方

【検討内容】

「博物館基本計画」をふまえ、今後博物館の具体的な検討を重ねて、設計・施設建設を推進していきます。また、管理運営計画の検討にあわせて、市民参加のしくみを検討し、市民から愛される持続可能な博物館を目指します。

- ① 展示計画の詳細検討および設計の発注
- ② 施設計画の詳細検討および工事の発注
- ③ 管理運営計画の検討
- ④ 市民参加のしくみ・情報発信等の計画 等



【検討体制】

今後の検討にあたっては、基本計画を策定した委員会を中心に、市民の声を聞きながら検討・協議を進めていきます。

発行：七尾市教育委員会

事務局：七尾市教育委員会文化課

〒926-8611 石川県七尾市袖ヶ江町イ部 25 番地

TEL：0767-53-8437 FAX0767-52-5194

e-mail：bunka@city.nanao.lg.jp